



盛岡市プレスリリース

～輝きが増し 活力に満ち 夢をかなえるまち盛岡～

令和8年10月1日
盛岡市市民部
市民協働推進課
男女共同参画推進室

市政記者クラブ加盟社 各位

もりおか女性センター ニュースレターについて

情報紙「もりおか女性センター ニュースレター No.117」を発行しました。

今号では、「もりおか女性センターフェスティバル 2026」を実施した事業の様子や参加者の声、もりおか女性センターを利用している市民団体の声などを掲載しております。

記

【掲載内容】

特集：もりおか女性センターフェスティバル 2026

- ・事業報告
- ・施設利用団体の声

【問い合わせ先】

もりおか女性センター
担当：田村（たむら）
TEL：019-604-3303

もりおか 女性セ*ンター

ニュースレター

ニュースレター

News Letter

Nº117
2026.10

特集

もりおか女性センター フェスティバル2026

- ・事業報告
- ・施設利用団体の声

相談

受付電話 **019-604-3304** 相談は無料です。秘密はかたく守ります。

相談開設時間 月・火・金 10:00～17:00 水・木 10:00～20:00

●女性相談

女性がかかえる、家庭や職場、身の回りのさまざまな悩みを、専門の相談員と一緒に考えます。性別や社会通念にとらわれず、一人ひとりの生き方を尊重する社会の実現をめざして、相談室はあなたらしい生き方を支援します。電話相談と面接相談があります(予約の方優先)。また、ホームページの相談フォームからメール相談も受け付けます。

●男性相談

男性の相談員による電話、もしくは面接相談。予約が必要です。
原則毎月第2土曜日に実施予定。場所などの詳細はホームページ
でご確認ください。

●LGBT相談

電話相談のみ。予約が必要です。

女性限定 無料

ウィメンズサロン・ゆるり

気軽におしゃべりしたい方も静かに自分の時間を過ごしたい方も
すこしだけ日常から離れて落ち着ける場所

原則 毎月第4水曜日 17:00~19:00

プラザおでって1階 起業応援ルーム 芽でるネット

詳細はHPを
ご覧ください

最新の情報は
ホームページから

x

Instagram

アンケートのご協力を
お願いします！

最後まで読んでいただき、
ありがとうございました！



みなさんの声を
ぜひお聞かせください



発行日:令和8年10月1日

発行:もりおか女性センター

(指定管理者:特定非営利活動法人 参画プランニング・いわて)

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通1-1-10プラザおでって5階

電話番号 (019)604-3303 FAX (019)601-4031

開館時間 月曜日～金曜日 9:00～21:30(土日祝17:00まで)

休館日 毎月第2火曜日、年末年始



女性参政権行使から80年の節目の年

「映画 〇月〇日、区长になる女。」

～映画会 & パンヌマキ監督アフタートーク～

©2024映画 〇月、〇日区长になる女。製作委員会



パンヌマキさん（脚本家・演出家・映画監督）

2022年の杉並区長選挙で初当選した岸本聡子氏に密着したドキュメンタリー『映画 〇月〇日、区长になる女。』を監督。第79回毎日映画コンクールドキュメンタリー映画賞を受賞。

映画会・利用団体展示について

もりおか女性センターでは、毎年「もりおか女性センターフェスティバル 映画会」を開催しています。

今年度は、女性の参政権行使から80年の節目にあたり、「**女性の政治参画**」をテーマに、9月12日(土)に映画会&監督アフタートークを開催しました。午前午後の2回上映し、92人の方にご参加いただきました。上映後には監督を迎え、作品に込めた思いや制作の背景についてお話を伺いました。

また、当センターを活用して男女共同参画社会の実現に向けて活動する15の市民団体、「起業応援ルーム 芽でるネット」を利用している13人の女性起業家の事業紹介展示を行いました。地域で活動する人たちの取り組みを紹介し、さまざまな活動や社会参画について知っていただく機会となりました。

映画会で寄せられた、みなさんの声

「自分たちで変えられる」という可能性がリアルに感じられた。「政治を自分事にする」動きが日本中に広がることを期待します。「一人街宣」に立っていた女性たちが区議になるという影響力が実際に確認できたことも素晴らしいと思いました。

様々な地域で上映をして、「自分も声を上げて良い」と思う人が生まれているという話がとても印象的でした。**盛岡でも上映された意味がとても大きいと感じます。**私自身も、地域で行動を起こし続けたいと**勇気をもらえた**と思います。

“政治を自分ごとにする”この映画を観て終わりにしない。“杉並すごいですね。で終わりにしない”とても考えさせられました。自分に何ができるか。

図書コーナーでは、映画パンフレットを閲覧することができます☆ぜひご覧ください！

区長になる女 〇月〇日、

※原文のまま掲載

パンヌマキ監督アフタートークの様子

午前午後の上映後、監督とのアフタートークを開催しました。最後には、映画に登場する小関啓子さんがスペシャルゲストとして登壇し、会場を盛り上げてくださいました。

映画を作ろうと思ったきっかけ

当初は映画にするつもりはありませんでしたが、選挙の現場で、区長候補者がさまざまな人から思いや要求を直接ぶつけられ、人々の感情が動いていく様子を目の当たりにしました。その姿に面白さを感じて撮影を続ける中、区長候補者岸本さんと小関さんが激しく言い合う場面を撮影したことで、「これはドキュメンタリー映画になる」と感じ、映画制作へとつながりました。

『個人の問題は社会の問題』ということについて

政治を自分事として捉えることは、大切なキーワードだと思います。私自身、4年前に地元の政治を自分事として考えるようになりました。杉並区でも、たくさんの女性が「自分も立候補してみたい」と思えるようになったことは、大きな変化だと感じています。

この映画は杉並区の選挙を描いた作品ですが、全国の方に自分のこととして観てもらえるのか、最初は心配でした。おかげさまで、映画館での上映から自主上映まで、41都道府県・約200か所で上映されています。杉並区の話でありながら、自分の街の話に置き換えて観てくださる方も多く、上映後に自分の街の政治について語り合うなど、映画が対話を生むきっかけにもなっています。そうした場面を見ると、この映画を作ってよかったと感じます。

監督の「自分のできる範囲で継続して関わっていける仕組みができると良い」という言葉が印象に残りました。仕事や日々の生活がある中でも、それぞれの立場で政治や社会に関わっていくことの大切さについて考えを深める機会となりました。

参加型 展示紹介

「こんなまちになったらいいな」「もっとこうだったら暮らしやすいのに」—そんな日頃の思いを、シール投票や付箋でシェア、2つの参加型展示を行いました。映画会の参加者をはじめ、日頃から当センターを利用の皆さまにもご参加いただき、たくさん声や思いが集まりました。

①シール型投票

「しごと・経済」「子ども・教育」「福祉」「くらし」「性・こころ・からだ」「その他」の6項目に分け、年代別に届けたい声を投票していただきました。今回の投票では、10～20代の参加が多く、若い世代からもたくさんの声寄せられました。

	10～20代 (n=42枚)	30～40代 (n=23枚)	50～60代 (n=34枚)	70代以上 (n=23枚)
しごと・経済 n=29枚	38%	21%	27%	14%
子ども・教育 n=28枚	57%	21%	11%	11%
福祉 n=28枚	36%	11%	36%	17%
くらし n=28枚	8%	20%	36%	36%
性・こころ・からだ n=28枚	12%	25%	38%	25%
その他 n=28枚	50%	25%	25%	



(9/14時点)

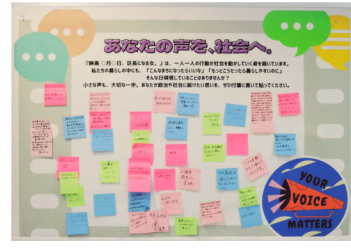
年代によって関心の集まるテーマに違いがあり、それぞれの世代の思いや願いが見えてきました！

「自分にとって大切なこと」を声にすることが、地域のこれからを考えるきっかけになります。みんなでよりよい地域をつくっていきましょう♪

②付箋で届ける【あなたの声を、社会へ。】

小さな声が、大切な一歩。政治や社会に届けたい思いを、付箋でシェアしました。ここでは寄せられた思いの一部をご紹介します。

- 次世代が安心して暮らせる世の中を残したい！
- 公共交通機関を増やして欲しい。バスの本数増やして・・・
- 自分の考えを話せる社会になれるといい。
- “生きづらさ”を個人の努力だけに任せない社会をつくって欲しい。選挙にいこう！
- 人を傷つけるための予算が増大し、介護保険の負担増やサービス縮小が進む現状に危機感を覚えます。戦争のない安心できる暮らしを求めます。



※原文のまま掲載

事業を終えて

今年は「女性の政治参画」をテーマに開催しました。地方政治は長い間、地域の名士が担うものとされがちで、市井の人々、特に女性は遠ざけられてきました。参政権行使から80年が経った今でも、女性議員の割合は、盛岡市議会では21%、岩手県議会では11%であり、全国を見ても3割に満たない自治体が多いのが現状です。

私たちの暮らしと政治は密接につながっています。「私」の問題は「私たち」の問題として共有し、一人ひとりが自分ごととして動いていけば、社会を少しずつ変えていける—そのような気づきやパワーを受け取っていただけたのではないのでしょうか。

「もりおか女性センター フェスティバル2026」にご参加・ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

(もりおか女性センター センター長より)

施設利用団体の声

防災アクショングループ

もりおか女性センターでは、施設利用や市民団体支援事業を通して、さまざまな市民活動が行われています。今回は、昨年度「市民団体支援事業」を活用いただいた「防災アクショングループ」より、普段の活動の様子など、お話を聞いてみました♪

私たちのグループは、令和5年度もりおか女性センター主催の防災連続講座の修了時、続けて集うことにした受講者の集まりです。センターのアドバイスで、防災に関する書籍を各自紹介する学習から始め、東日本大震災時に奮闘した医師達の手記などが紹介されました。中でもトイレについての学習は衝撃的で、災害時のトイレ事情が、トイレを我慢し健康被害につながり、結果、災害関連死が増えた一因となったことは、皆と共有したい、しなければならぬ内容だと思いました。

現在メンバーは、女3男2計5人で、月1回の会合と年に一度の発表会を開く体制が定着しつつあります。会合では、小さな質問を大事にしながら、意見を出し合い理解を深めています。防災関連の活動歴が長い男性2人は、献身的に会を支えています。みんな学ぼう精神旺盛で、自ずと男女共同参画が実践される環境にあると感じます。各々が長年積み重ねてきた経験や知識が活かされ、補い合える場になっている、このグループの活動を、これからも大事にしていきたいです。

防災アクショングループが主催の市民団体支援事業が10/21(水)に、生活アトリエにて行われます。現在申込受付中です。詳細は右横の二次元コードをご確認ください。

※令和8年度もりおか女性センター主催の防災連続講座は、詳細が決まり次第、HPなどでお知らせいたします！

